

読書のすゝめ

その11 H30 5/11

第64回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

☆高等学校の部

『わたしがいどんだ戦い1939年』



(キンバリー・ブラッドリー) 評論社

足が悪くて母親から虐待を受けて育ったエイダ。第二次世界大戦が始まり、弟のジェイミーが学童疎開することになるが、自分も付いて行く決心をする。母親から逃れるのだ。疎開先で二人を引き取ったスーザンは、困惑しつつも心が傷ついた二人を受け入れる。地域の人びとも支えられ、エイダもジェイミーも少しずつ変化し、やがて三人には強い絆が生まれる。戦時下の英国を舞台に家族とは何かを描く。



『車いす犬ラッキー：捨てられた命と生きる』(小林照幸) 毎日新聞出版



ラッキーは拾われてきた子犬だった。飼い主の須尚が、保健所から殺処分前に引き取ってきた。飼っていた犬、寅とも仲が良かった。そのラッキーが事故に遭い脊椎損傷の大怪我をする。獣医は安楽死の道も示したが、須尚は飼いつづけることを決める。亜熱帯の島、徳之島で生まれ、電器店を営んでいた須尚の生い立ちや、結(ゆい)の精神が生きる島の人びとの暮らしを、車いす生活になったラッキーの姿と共に描くルポルタージュ。

『いのちは贈りもの：ホロコーストを生きのびて』(フランシーヌ・クリストフ) 岩崎書店



戦争が始まった。フランシーヌの父はフランス北部で戦っていたが、ドイツ軍に敗れて捕虜になった。町はユダヤ人迫害の嵐が吹き荒れ、フランシーヌも公園や地下鉄で差別を受けるようになった。そして9歳になる直前、母とともにドイツ兵につかまり、ユダヤ人強制収容所に送られた。空腹と寒さ、病気など想像を絶する過酷な状況の中でも希望を失わず、互いに支えあって奇跡的に生きのびた著者による手記。

「課題図書」の選定経過について

2017年1月1日から12月31日までに発行された新刊図書のうち、全国S・L・Aの「選定図書」になった図書を対象として検討され選ばれたものです。選定基準は以下の4点。

- * 豊かな読書体験となる作品であること
- * 「考える読書」にふさわしく明確な主題を持ち、内容に深まりや広がりがあること。
- * 正義と真実を愛する精神に支えられ、人権尊重の精神が貫かれていること。
- * ノンフィクションについて、科学的に正確で、主題の取り扱いが新鮮で、創意工夫が見られること。

選ばれた課題図書は、日本語の美しさや読書の楽しさが伝わる本、読書の醍醐味が味わえ、さまざまな内容の感想文が思い起こされ、考えさせられる本です。ぜひ手に取って読んでみてください。

図書委員活動報告

- ① 5月7日に第2回図書委員会がありました。桜芳祭での係と、年間の仕事の分担の確認をしました。
- ② 9月の文学散歩の行き先が決定しました。(世界遺産登録の富岡製糸場)



↑ 新着図書の装備に係の委員さんが放課後遅くまで行ってくれました。
2年7組・3年2組の図書委員さん(フラズ希望参加1名)ありがとうございました!